第79号
平成16年5月29日発行
群馬県山岳連盟
〒371-0005 前橋市堀之下町494-2
女屋　等志方
TEL 027-269-4570
TEL 027-269-4583
編集発行人
群馬岳連編集部　岡安茂能
印刷所　朝日印刷工業(株)

山岳ぐんま

岳連活動を考える

群馬県山岳連盟
副会長　羽野順一

近年、岳連加盟団体の脱退が年々続き、新入会の団体も少なく、運営面と組織の面で今後の群馬岳連を考えたとき、大変心配になっているのは、私だけでなく、現岳連役員及び加盟山岳会の人達も含め関係者全員が同様な思いであろう。この状況は群馬岳連のみでなく、日山協加盟の各都道府県山岳連盟等も同様であるはずです。

岳連を支える各山岳会の中には、この状況がもっと深刻で会員が年々減少し二・三名の会員だけになり、ついには会を解散する団体が続出しているのが現在の状態です。

想い返せば一九五〇年代～一九六〇年代は日本全国が登山ブームで、休日ともなれば満員の夜行列車が土合駅のホームに着くと、登山者でホームがいっぱいになり、谷川岳の頂上まで登山者が列をなし、一ノ倉沢の壁を目指すクライマーで順番待ちのこともたびたびであった。

私の所属している境町山の会でも、当時こんなことがありました。一九六二年の冬山合宿で谷川連峰縦走中、風雪のため行動がストップし、下山が三日ほど遅れ、新聞・テレビ等で「遭難」の報道が出て、その後全員無事下山し、「奇跡の生還」の記事を見て、若い人達約三〇名が一度に入会して来た。全員が新聞記事を見て入会する気になったと話していた。他の山岳会、企業内の山岳部、大学山岳部等も同様に、山好きの若い人達がこぞって入会して来たと思います。

その後、群馬岳連でも、各会から心技両面で優れた人材が集まり、七八年の南東稜からのダウラギリI峰の登頂、九三年には世界初の冬期サガルマータ南西壁の初登攀という偉業を成し遂げたのを初めとして数々の実績を作り、名実共に国内でもトップクラスの山岳連盟として現在に至っている。

私が岳連に初めて出て行くようになったのは、当時境町山の会から川辺さんと小暮勝義が会の代表として岳連役員で顔を出していたが、七八年の岳連隊ダウラギリI峰南東稜で小暮勝義が逝き、その後任として会の指令を受け、岳連組織の一員となった。

自分自身としては、岳連でお世話になることを決めたもう一つのことは、それまでは会の活動中心でやって来たが、穂高涸沢での八名全員がナダレによる遭難死、又ダウラギリI峰での小暮勝義の遭難に対し、岳連の皆さんに言葉では言い表せないほどのお世話になったことから、大した協力も出来ないがせめてもの恩返しのつもりで、岳連活動に参加させてもらった。その時から二十五年が経ち、その間、主に編集部を中心に、当時機関誌『嶺呂』現在は『山岳ぐんま』を岡安さん（現編集部長）の協力で長い間発行に携わって来た関係で、今まで岳連が歩んで来た歴史がその時代と共に移り変わって来た様子を深く知ることが出来た。

会長は浜名会長から現会長の星野会長となり、直接運営の責任者である理事長は、石井さん、田中さん、八木原さん、名塚さんと、それぞれ素晴らしい方々が引き継いでこられた。その他の役員も、うまくバトンタッチしながら岳連全体が一つにまとまり、日頃星野会長が話しているように、「群馬岳連ほど一つにまとまっている団体は他にない」という様に「群馬岳連」の名のもとに各分野でそれぞれが頑張っている。しかしながら、山を志す若い人達の減少は（中高年は今でも盛ん）、岳連も各山岳会でも大変深刻な問題となっている。ではこの問題を打開するにはと言われても、正直特に解決策はありませんが、これらの問題で私なりの勝手な意見を書いてみます。

日山協の『登山月報』で、田中会長が日山協の組織強化を重点に未加盟団体に対する働きかけを日山協加盟団体に対しお願いしているが、この点も今後の岳連として力を入れる必要があるのでは。その他に高体連登山部の先生方に協力してもらい、岳連と各会が中心となり、お互いに連携をとり、卒業して行く高校生に対し入会に向けアピールして行くのも一つの考えかと思う。

以上のような対策を実施する前に、岳連の組織全体でこの問題に取り組み、出来れば「検討委員会」を作り、あらゆる面から沢山の人からの意見を集約し、まとめてから実行する必要があるのでは。近年岳連行事も増え、関連団体への参加も含め、各部では部長を中心に大変多忙な毎日かと思います。その中に於いて何とかこの件をまとめて対策の一つと考える必要があると思います。

これからの岳連活動を行うにつき、例えば今後も岳連を離れて行く会もあるかも知れません。規模がスリムになれば、それに合わせて活動もスリム化して行かねばならないのでは？　そういうことも視野に入れ、岳連全体で重点事項として取り組んで行かなければ、せっかく現在までの素晴らしい実績と栄光を今後も継続して行く上に、どうしてもやらなければならない問題だと痛感致します。

第二十六回 県民登山大会報告

群馬登高会
土屋邦夫

去る十月二十六日（日）に表妙義において、第二十六回県民登山大会が開催されました。今年度は、群馬登高会がホスト山岳会となり、準備を進めてまいりました。まず、会内に実行委員会を組織し、実施山域の検討から始めました。登高会は、地域山岳会ではないので、地元の山を持っていません。そこで、古くから馴染みのある山草津白根周辺を考えました。しかし、時期的に降雪など不測の事態も予想され、却下されました。次に候補に上がったのが、OB会員を中心によくコースを知っている表妙義でした。紅葉にさしかかる時分であり、混雑が予想されましたが、参加者も集まりやすいということで最終決定しました。コースは中高年登山者を見込んで、できるだけ難所を避けようということになり、Aコース＝大文字から奥の院の周遊コースと、Bコース＝中間道、Cコース＝石門めぐりの三コースを設定しました。Aコースは数箇所鎖場があり、三コースの中では上級者向きとしました。Bコースは歩く距離が長く、途中のあずまやから金鶏橋へ降りるコースとしました。Cコースは表妙義の代表的な石門めぐりで、スリリングな鎖場がある割には距離的・時間的に表妙義入門コースとして親しまれているコースです。この三コースではやや物足りない点もありましたが、安全を第一と考え設定しました。

当日は、一般参加者一四〇名と役員四一名、合計一八一名の登山愛好者が集まりました。天候にもめぐまれ、中腹まで色づき始めた表妙義で、県民登山大会が開会しました。参加者はそれぞれのコースにわかれ、各リーダーからコースの説明を聞いた後、入念な準備体操をして登山を開始しました。A・Bコースは妙義神社を経由して大文字・中間道にわかれました。Cコースは高崎山岳会がチャーターした小型バスにお世話になって、中之岳神社駐車場に向かい、そこから石門めぐりが始まりました。各コースとも順調に日程をこなし、予定時間より大分早く開閉会式会場に到着しました。心配していたAコースの鎖場もスムーズに通過し、全員事故なく無事登山大会を終えることができました。終了後は、登高会OBが心をこめて準備した味噌汁に舌鼓を打ちながら和やかに解散となりました。

本大会は、主管山岳会や岳連役員のボランティア精神により、二十六回も続く伝統ある行事となってきました。特に主管となる山岳会は準備や運営が大変ですが、山を愛する人々が集う場として、また登山者の底辺拡大を広げる機会としてとらえ、今後も末永く続けていければと思う次第です。最後に、本大会にご協力いただいた妙義町をはじめ、関係者の方々に深く感謝し、御礼申し上げ結びと致します。

「第8回 フリークライミング群馬カップ 2003」を終えて

群馬岳連クライミング部長
堀越利通

一九八八年の初回から、なぜか今年で八回目を迎えるフリークライミング群馬カップを、十一月九日、ウォールストリートにて開催した。

今年から、トップロープのジュニアクラス、リードロープのミドルクラス、エキスパートクラスの種目別で競う。

競技内容は、各クラスとも技術的ルートとパワールートの二ルートを設定した。

今回特に目立ったのは、子供達の出場が多かったこと。半ば冗談で中学生以下も出場可としたが、エキスパートに一人、ジュニアに五人の健闘で、選手・見学者を喜ばせてくれた。

各クラスの様子としては、ジュニアクラスは子供が多く、まるで運動会のよう。ミドルクラスはアットホームな雰囲気。エキスパートになるとお互い火花を散らし闘志むき出し。

主催者側の予測以上にレベルが高く、設定ルートの完登者が多く、決勝ファイナルにもつれこんだ。これは嬉しい誤算だった。

大会を運営するにあたって、私は今回のイベントが初めてのため、何から手をつけていいかわからず、特に選手集め、スポンサー集めには苦労した。

そんな中、ウォールストリートの柘植さんに各ジムにアピールしてもらったおかげで、他県からも数名の参加者が集まった。

しかし残念なのは、岳連の人達の参加が少なかったことだ。ミドルクラス、エキスパートクラスにも参加できる実力を持った人は多いと思う。

腕に自信のある岳連諸君、次回の参加お待ちしています。

群馬カップ2003成績

《ジュニアクラス》

選手氏名	所属（又は住所）	1本目		2本目		順位計	スーパーファイナル	総合順位
		順位	得点	順位	得点		SF高度	
西山　文浩		1	完	1	完	2	10.5	1
瀬下　恵介	高崎工業高校	1	完	1	完	2	8.2	2
高橋　彗多		1	完	1	完	2	8	3
平井　悠希	下館小学校	1	完	1	完	2	7	4
堤　孔盟		1	完	1	完	2	5.5	5
塚田　遼河	ロッククラフト	1	完	1	完	2	5.5	5
新井　裕人	高崎工業高校	1	完	8	7.3	9		7
沼田恵理子		8	15-	1	完	9		7
飯塚　幸治	高崎工業高校	9	14	8	7.3	17		9
平沢　雅輝		10	11-	8	7.3	18		10
沼尻　千璃	ロッククラフト	11	8	11	4.1	22		11

《ミドルクラス》

選手氏名	所属（又は住所）	1本目		2本目		順位計	スーパーファイナル	総合順位
		高度	順位	高度	順位		高度	
大島　智典	Team e-ro	TOP	1	TOP	1	2	7	1
上杉智佐子	横浜市	TOP	1	TOP	1	2	6.5	2
沼田　正美		TOP	1	TOP	1	2	5.5	3
高橋　俊浩	高崎工業高校	TOP	1	TOP	1	2	5	4
松本　佳織	上田市	TOP	1	11.5	5	6		5
斉藤きく代	前橋市	TOP	1	11.5-	6	7		6
小寺　忠広	上尾市	TOP	1	9.8-	7	8		7
北原三知江	WS	TOP	1	9.5	8	9		8
堀込　務	伊香保町	TOP	1	9-	9	10		9
日部　貴博	高崎高校	TOP	1	9-	9	10		9
真下　昭宏	WS	TOP	1	8.6	11	12		11
沼尻　拓磨	ロッククラフト	TOP	1	8.6-	12	13		12
鹿山　知之		TOP	1	7	15	16		13
千木良かおり	沼田女子高校	TOP	1	5+	16	17		14
原口慎太郎		TOP	1	5.6-	17	18		15
クリス　ブリー	群馬町	9.2-	17	8.6-	12	29		16
片野　直子	沼田女子高校	8-	18	8.1	14	32		17
篠江　雄一	国分寺市	9.2	16	5.6-	17	33		18

《エキスパート》

選手氏名	所属（又は住所）	1本目		2本目		順位計	スーパーファイナル	総合順位
		高度	順位	高度	順位		高度	
遠藤　孝	横浜市	11.5	4	17+	1	5		1
日野　雅之	ジョーボー	11.5+	3	16.5	2	5		1
高山　淳史	WS	TOP	1	7+	6	7		3
三橋　宏昭	長野県坂城町	TOP	1	6.5	7	8		4
酒井　正信	伊勢崎市	8	8	16-	3	11		5
橋詰　正興	長野市	8.0+	7	8+	4	11		5
堀込　悟	伊香保町	9.0+	6	8	5	11		5
新田　龍海	クライムワークス	10.5+	5	5+	8	13		8

平成十五年度冬山合宿

群馬岳連遭難対策部長　松永幸雄

平成十五年度の冬山合宿が左記の様に計画され、実行されました。

（L：リーダー）

大間々山岳会
　爺ガ岳・鹿島槍ヶ岳
　（L福田純一）

太田山岳会
　鹿島槍ヶ岳（L長山栄二）
　前穂高北尾根（L金子茂敏）
　槍ヶ岳（L武井幸一）

桐生山岳会
　立山
　（丸山中央稜、L吉田秀樹）

群馬登高会
　谷川岳～平標山（L堀越利通）

境町山の会
　日光白根山（L竹川弘一）
　宝剣岳～木曽駒ヶ岳
　（L竹川弘一）
　黄連谷（L劔持典之）

沼田山岳会
　谷川岳（L真下浩）
　富士山（L水野金太郎）

前橋山岳会
　剣岳早月尾根（L角田守）

松井田山岳会
　八ヶ岳
　（硫黄天狗、L須藤敬二）

今冬の合宿は悪天候のため、右記計画の内、計画通り実行されたのは太田山岳会の槍ヶ岳、境町山の会の宝剣岳、松井田山岳会の八ヶ岳のみでした。

沼田山岳会の富士山では九合目で強風により一名滑落、下肢を骨折し、地元山岳会・山梨県警・防災ヘリ等にお世話になり、翌日防災ヘリで収容、全治三ヶ月のケガでした。

最近の合宿の傾向ですが、メンバーが高齢化し、これから群馬県から海外の山やより困難な山に挑戦する若者が育つのだろうかと心配されます。また、社会情勢の為でしょうが、予備日等の不足や、計画遂行に対する執念の不足が最近の合宿では顕著です。

将来の群馬岳連を背負ってくれるような若者を育てるためにも、各会から精鋭を集めた岳連隊を組織して、若者の育成が出来たらと思います。

いずれにしても現状のままでは、岳連は衰退してしまいます。来年度に向けて、より一層の向上を期待します。

岳連カレンダー二〇〇四年版発刊に当たって

群馬岳連事業部長　長谷川　勇

二〇〇四年版岳連カレンダーが各界・各方面のご協力をいただき、第十六作目の作品として仕上げることができました。

これまで作品の応募が少なく、当方から声を掛けて作品集めということが多々ありましたので、今回は早々に応募要項を作り、数回に分けて案内をしましたが集まらず、ほぼ、前回と同じ人たちのご協力のもと発行することができました。

二〇〇四年版の作品につきましては、特にこれまで少なかった登山者の写った作品の採用を心がけ、表紙につきましては毎回同じではなく、若干デザインを改めた上セピア調にしてみましたが、ちょっと見た感じも変わり面白く仕上がったように思えますが、次年版につきましては、更に四季に分類し、やや色を変え季節感のあったセピア調に仕上げたいと思っています。

売り捌きにつきましては、このところ販売の伸び悩みがみられますので、製作部数を減らしたため、当然、売り上げ・収入の減少はやむを得ず、それなりに努力はしましたが、これからも岳連事業部のカレンダー製作・販売を岳連内外にも知らせ、今後ともこれまで以上に販路の拡張等を視野に、内容を充実させていく予定です。

又、これまで、ささやかですが二十部一梱包に付き一部の謝礼を付けてきましたが、理事会で幾度か検討した結果、これは廃止しても良いのではないかという結論に達し、今回からはこれを無くしましたのでこの紙面でご報告しますと共に、特にこの点ご理解いただき各会へのご迷惑を避けるため、代金振り込みの際、振り込み手数料を差し引きご入金いただければと思います。

尚、今回残数もなく完売をすることができましたことをご報告方々深く感謝申し上げますと共に、早速、二〇〇五年版の製作準備に入りますが、これまで同様、製作・販売にご指導ご協力をいただき、岳連収入にお力をお貸しいただきたくお願いいたします。

今後も理事会の席上及び事務局からの文書発送の折り、応募案内を幾度かに分けて各会へ案内する予定ですが、年間募集としますので是非四季折々の素晴らしい作品の応募をお待ちしております。

2005岳連カレンダー作品募集要項

◎**テーマ**　群馬およびその周辺山岳の大自然と四季折々の美しい姿をとらえた未発表の作品を募集いたします。

◎**締め切り**　常時受付をしておりますが、七月上旬を一区切りとして審査・採用決定を行い、以後の応募作品は次年分とさせていただきます。

◎**発表**　七月中旬。採用・不採用共、ネガ返却と同時にご案内いたします。

◎**応募規定**　作品には必ず応募票に必要事項（画題・氏名・電話・住所・撮影場所および季節）を記入し添付してください。原則としてリバーサルフィルムとしますが、作品によってはその限りではありません。デジカメによる作品、およびデジタル処理した作品はお受けできません。

◎**謝礼**　採用させていただきました分には記念品を進呈いたします。

◎**送付先**　〒377－0424
中之条町中之条949－3　長谷川　勇
電話　0279－75－2741

氷壁講習会報告

初級報告者　太田山岳会　太田ひろ子
上級報告者　太田山岳会　町田雅美

二〇〇四年二月一日、天候快晴・気温零度のなか、氷壁講習会が栃木県足尾町の松木沢渓谷で開催された。松木渓谷は少し雪をかぶり、相変わらず荒稜とした谷間に鹿の群れがたたずんでいた。受講者は大間々、桐生、登高会、前橋、ミヤマ、太田各山岳会より計二〇名が参加した。始めに田中成幸講師より開講の挨拶があり、準備体操後に、ロープの結び目を通過する方法について説明を受けた。その後、初級・上級に分かれて氷壁に向かった。

初級は阿部源指導委員長のもと一〇名で、程なく黒沢の氷壁に着く。まずバイルの種類及び取扱方法の説明と、アイゼン歩行練習を繰り返し行う。ヘルメット・目出帽・手袋の諸注意を受けた後、氷壁七㍍の所で氷の張り方の違いを確認し、バイルの打ち方やアイゼンでの足の位置、体重移動の仕方等説明を受けてから、各々が三箇所にセットされたトップロープに挑んだ。昼食後は、スクリューの取扱方や氷壁での支点の取り方等をバイルやスリングを使いながら作り体重を掛けてみた。その後、各々でそれらを試したりトップロープでの練習に励んだ。実際に初めての人やアイスクライミングを何度か行ったことのある人達も交えて、和気あいあいと楽しめました。

上級受講者一〇名は横向き沢へ移動し、田中成幸講師より「今回の講習会はリードが出来る者を対象としたものである。リードが出来るようになった者は自分が登るだけではなく、後輩を指導するための技術を学んでほしい」と訓示を頂いた。氷の種類とスクリューの選択方法について、ハンマーインハンマー・ハンマーインスクリュー・スクリューインスクリューの説明を受けた後、ロープを使わずアイスアックス一本で登攀及び下降を行った。初心者が両手にアイスアックスを持つと、手元に神経が集中してしまうため、足元が疎かになってしまうが、アイスアックスを一本にすることで、バランスを意識しながら足で登ることに集中できるため、丁寧なフットワークの練習ができる。次にスクリューだけをセットしたレッドポイントでの登攀を行った。この方法はリード初心者の精神面と技術面の負担を軽減することができる。最後にV字スレッド・アイスボラード・氷柱での支点を作成した。これらの支点工作は文献・講習等で知られているが、強度についてはあまり知られていないのが実情である。強度に対する不安があると、実際にルートへ出た場合に「使う勇気が出ない」というのが素直な感情だと思われる。今回は男性三人が引っ張る形での強度テストを行ったが、強度に耐えられることが分かった。強度テストを実際に行ってみせることにより「知らない不安」を払拭することができる。そして各々が練習を行うことで「見たことがある。知っている」という状態が「使える技術」となりクライマー自身の力になってゆく。上級の講習は指導技術の方法論だけではなく、いかに初心者の目線を理解したうえで指導できるかという点についても田中講師から学ぶことができた。ご指導頂いたことを持ち帰り咀嚼し、今後に活かせるよう精進に努めたいと思っております。　末筆ではありますが、受講者に代わりまして、講習の企画準備をして下さった委員会の方々、限られた時間のなかで内容の濃い指導をして下さった講師・指導委員長にお礼申し上げます。ありがとうございました。

味の店　ドライバーレストラン

一本松さかい

利根郡白沢村（国道120号線）　TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場

星野水産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231　TEL・FAX　0278-23-6802

Annapurna

高崎八幡霊園
観音山聖地霊園
墓地取扱店
墓石指定店

石材 高橋石材

高崎市石原町1497 TEL(027)323-8867
工場・高崎市八幡町1245-67 TEL(027)343-0270
携帯 090-8725-8456

電話、弱電工事

プモリ電設

〒379-2223
佐波郡東村東小保方252
☎ 0270-62-2012

(有) 山とスキーの店 石井

DreamBOX
伊勢崎市宮子町1819-1
TEL 0270-21-8025
FAX 0270-21-8026

本店(山の談話室 楼蘭)
伊勢崎市中央町18-8
TEL 0270-25-0272

萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。

総合建設業

萬屋建設株式会社

会長　星野　光

■本社　群馬県沼田市上原町1756-2　TEL 0278-23-4648(代)　FAX 0278-24-3371
■支店　東京都豊島区東池袋4-2-7　TEL 03-3985-7631　FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定（公認）

株式会社　沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町1088-13　TEL 0278-24-4811　FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店

有限会社　丸萬石油

群馬県沼田市上原町1756
TEL 0278-23-0018　0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場

建設生コン株式会社

本　社　沼田市上久屋2338-1　TEL 0278-24-3111
大楊工場　利根郡利根村大字大楊187　TEL 0278-56-3682

総合建設業

株式会社　鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋1162-5
TEL 0278-22-2846　FAX 0278-23-6233

マンション

萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
TEL 03-3971-3433　FAX 03-3982-5964